礼拝説教（2019年5月26日）

説教者：中村信哉

幸いもわざわいも神から

ヨブ記2章1-10節

はじめに

今年から、毎月第四主日の説教は、旧約聖書からの説教となっています。私が旧約聖書から説教する時は、「ヨブ記」から説教することにしています。

1. ヨブという人

ヨブという人は、**「誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている人」**でした。彼のように主なる神様を愛する人は、この地上に一人もいないほどでした。彼は神様に祝福されて、多くの財産を持っていました。**「羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百匹、雌ろば五百頭、それに非常に多くのしもべ」**がいました。また彼には、**「息子七人と三人の娘」**がいました。彼の子どもたちは非常に仲が良くて、順番にお互いの家を行き来して一緒に食事をするほどでした。ヨブはそんな子どもたちを愛し、彼ら一人ひとりのために全焼のいけにえを神様にささげて、彼らの罪の贖いをしていたのです。

ヨブは神様と子どもたちを心から愛する人でした。そして神様から祝福されて、多くの財産と仲の良い子どもたちを与えられた人でした。

2. 財産と子どもたちを奪われるヨブ

しかしある時、サタンがヨブに心を留めて、主なる神様にこう言ったのです。**「ヨブは理由もなく神を恐れているでしょうか」**。サタンは、ヨブが神様を愛しているのには理由がある、それは、神様がヨブに多くの財産と仲の良い子どもたちを与えているからだ、もし神様がヨブからそれらの祝福を奪えば、ヨブはたちまち神様を呪うに違いない、と言うのです。つまりサタンは、ヨブの信仰は「御利益信仰」だと言うのです。ヨブはあくまでも神様に祝福されているから神様を愛しているだけで、神様の祝福が取り去られれば、神様を愛さなくなると言うのです。

そこで神様は、サタンにヨブの財産と子どもたちを自由にする許可を与えたのです。サタンはわずか一日のうちに、四つの災難をヨブに与えます。①シェバ人の襲撃によって牛とろばを奪い取り、②落雷によって羊を焼き滅ぼし、③カルデヤ人によってらくだを奪い取り、④竜巻によって十人の子どもたちの命を奪いました。そして多くの若いしもべたちも殺されました。ヨブはわずか一日の内に、多くの財産や愛する子どもたちをすべて失ったのです。

では、突然このような試練を経験し、財産や子どもたちをすべて失ったヨブは、神様を呪

い、神様を愛さなくなったでしょうか？そうではありません。ヨブは試練の中でも、決して神様を礼拝することを止めませんでした。そして、**「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」**と告白して、神様を賛美したのです。ヨブは神様の祝福が取り去られても、神様を愛し続けたのです。この試練を通して、ヨブの信仰は「御利益信仰」ではなかったということが明らかにされたのです。

3. 健康を奪われるヨブ

しかしサタンは諦めませんでした。サタンは 5 節で、もう一度、主なる神様にこのように言います。**「しかし、手を伸ばして、彼の骨と肉を売ってみてください。彼はきっと、面と向かってあなたを呪うに違いありません」**。サタンは、ヨブは確かに財産と子どもたちを失っても神様を呪わず愛し続けた、しかし健康を失ったらどうだろうか、健康を失ったらさすがのヨブも神様を呪うに違いない、そして今度こそ、ヨブの「御利益信仰」が明らかにされるだろう、と言うのです。

サタンの目的は、私たちに神様を呪わせ、愛さなくさせ、神様と私たちの関係を壊すことです。では神様が私たちに求めている信仰とは、どんな信仰でしょうか？それは、1：9にあったように、**「理由もなく神を恐れる」**ということです。神様が私を祝福してくださるからとか、神様が私を幸せにしてくださるとかではなく、神様が神様であるがゆえに、神様を信じるということです。

御利益信仰とは、自分の幸せのために、自分の祝福のために、神様を信じるということです。そういう信仰は、自分が幸せだと感じなくなったら、神様の祝福が取り去られたら、神様への信仰を捨てるのです。私たちの信仰が、御利益信仰かそれとも本物の信仰かは、試練の時に試されるのです。

ヨブは第一の試練の時には、財産と子どもたちが奪われました。それでもヨブは、神様への信仰を失いませんでした。神様を呪ったり、神様を愛することを止めたりしませんでした。そしてヨブは、第二の試練を経験することになります。第二の試練でヨブは、健康を奪われるのです。

彼は**「足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物」**で侵されました。それは、夜眠れないほどのもので、肉にうじ虫がわきます（7：4-5）。皮膚も黒ずんで、骨にまで痛みが伴います（30：30）。内臓も侵され、吐く息も臭くなり、やせ細っていきます（19：17-20）。外見も変り果て、ヨブであることの見分けがつかないほどでした。

彼は、この病気のゆえに人々から嫌われ（19：17-19）、**「灰の中」**に座ることになりました。灰の中とは、町のゴミ捨て場、焼却場のことです。彼は、人々からゴミのように扱われるようになったのです。

4. 妻の信仰を奪われるヨブ

この第二の試練で、ヨブは健康を失うだけでなく、妻の信仰をも失うことになります。9節でヨブの妻は、財産と子どもたちを失い、健康までも失ったヨブに、このように言います。**「あなたは、これでもなお、自分の誠実さを堅く保とうとしているのですか。神を呪って死になさい」**。第一の試練の時、ヨブの妻も大きな悲しみに包まれたと思います。自分がお腹を痛めて産んだ子どもたちを突然失ったのですから。しかしそれでもヨブの妻は、ヨブと共に試練に耐えたのです。神様を呪ったりせず、ヨブと共に神様を愛し続けたのです。

しかし第二の試練で、ヨブの妻は耐えられなくなったのです。彼女はついに、神様を呪い始め、神様を愛せなくなったのです。財産や子どもたちが奪われただけなら、またもう一度、ヨブと力を合わせてやり直せると思ったのかもしれません。しかし今度は、ヨブの健康も奪われたのです。やり直す力さえ残っていないのです。

それに加えて、ヨブが苦しむ姿を見る辛さ、またヨブの介護にも疲れ果てたということがあったかもしれません。この第二の試練で、ヨブの妻はついに信仰を捨ててしまうのです。

ヨブは、財産も子どもたちも健康も奪われた上に、これまで共に試練に耐え、信仰を支え合ってきた妻が、神様から離れていくという悲しみをも経験することになるのです。

そして愛する妻から、「神を呪いなさい」と誘惑されるのです。ヨブにとっては第三の試練とも言えるものです。そこでヨブは、妻を取るか神様を取るかの選択を迫られるのです。妻と共に神様から離れ、信仰を捨てるか、それとも妻の誘惑を振り払って神様を愛し続けるか？

5. ヨブの信仰

ヨブは 10 節でこのように言います。**「あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわいをも受けるべきではないか」**。

ヨブは神様を愛し続けることを選びました。ヨブは第一の試練の時、「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」と告白しました。そして第二の試練では、「私たちは、幸いを神から受けるのだから、わざわいをも受けるべきではないか」と告白しました。

ヨブの信仰は、一貫した信仰でした。神様は私たちに祝福を与える時もあるし、祝福を取られる時もある、しかしヨブの信仰は、神様の祝福のあるなしに左右されない信仰でした。神様に祝福されている時も、そうでない時も、神様を愛し続ける信仰でした。

またヨブの信仰は、幸せの時も、悲しみの時も変わらない信仰でした。自分が順風満帆な時も、悲しみや苦しみを経験している時も、神様を愛し続ける信仰でした。人生には、祝福される時もそうでない時も、幸せな時もそうでない時もあります。人生には良い時も悪い時もあり、山もあり谷もあります。しかしヨブの信仰は、人生の状況によって変わってしまう信仰ではありませんでした。どんな時でも神様を賛美し、礼拝し、愛し続ける信仰でした。

おわりに

神様は、私たちに祝福を与え、祝福を取られる方でもあります。また神様は、私たちに幸

せを与え、わざわいをも与える方でもあります。神様は私たちの信仰を試し、私たちの信仰を強めるために、祝福を取られることもわざわいを与えることもされる方です。

新約聖書のヤコブの手紙に、このようにあります。**「私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。あなたがたが知っているとおり、信仰が試されると忍耐が生まれます。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります」(ヤコブ 1:2-4)**。試練は、私たちを成長するために与えられるものです。私たちを何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者とするために与えられるものです。私たちが祝福を取られる時もわざわいを与えられる時も、私たちに必要なことは忍耐です。忍耐して神様を賛美し、礼拝し、愛し続けることです。その忍耐を通して、私たちの信仰は磨かれ、強められ、生涯の最後まで守り通せる信仰へと成長していくのです。